

# 東北地方の1か月予報解説資料(予報期間:10月27日~11月26日)

平成13年10月26日 仙台管区気象台

## 1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)



- [気温]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。「低い」の可能性が次に大きく、その確率は30%です。「高い」の可能性は20%と小さい。
- [降水量]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は40%です。「少ない」と「多い」の可能性はそれぞれ30%です。
- [日照時間]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は40%です。「少ない」と「多い」の可能性はそれぞれ30%です。

## 2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

### 向こう1か月

低気圧が周期的に通過し、低気圧の通過後は寒気が入るでしょう。東北日本海側では平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。東北太平洋側では天気は周期的に変わり、平年同様晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

向こう28日間の平年の晴れ日数: 東北日本海側約10日、東北太平洋側約17日

### 各予報期間の天候の特徴

1週目…………… 期間の初めと中頃に気圧の谷が通り、曇りや雨の所があります(10月27日~11月2日)が、その他の日は高気圧に覆われ概ね晴れる見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数: 東北日本海側約3日、東北太平洋側約4日

2週目…………… 高気圧と低気圧が交互に通り、天気は周期的に変わるでしょう。低気圧の通過後は寒気が入り、東北日本海側ではしぐれる所がある見込みです。

平均気温は低いでしょう。

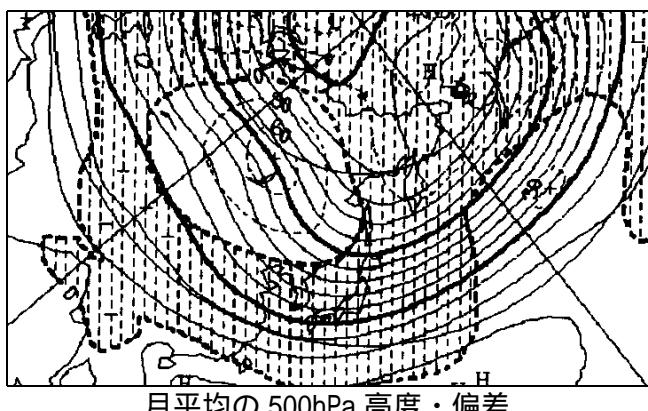
平年の晴れ日数: 東北日本海側約3日、東北太平洋側約4日

3~4週目…………… 低気圧が周期的に通過し、低気圧の通過後は冬型の気圧配置となるでしょう。東北日本海側では曇りや雨の日が多く、雪の降る日もあるでしょう。東北太平洋側では、天気は周期的に変わり、晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数: 東北日本海側約4日、東北太平洋側約8日

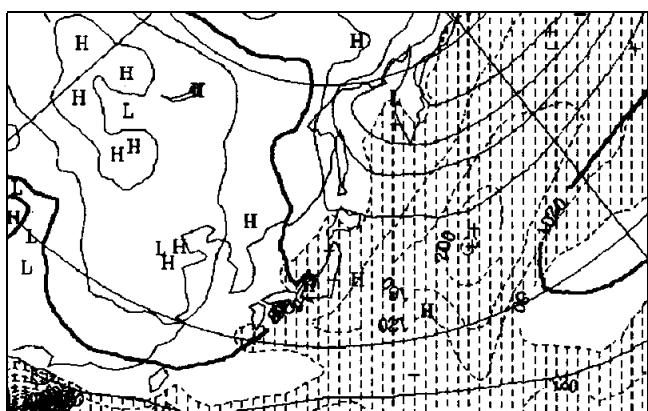
### 予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



#### ・500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、大陸はバイカル湖付近を中心とした正偏差、日本付近は広く負偏差に覆われる。偏西風の流れは東西流が卓越しており、低気圧が周期的に通過し、通過後寒気の影響を受けやすい。

週別（図略）では、1週目は日本付近は正偏差に広く覆われる。2週目以降は、日本付近は負偏差に覆われ、寒気の影響を受けやすくなる。

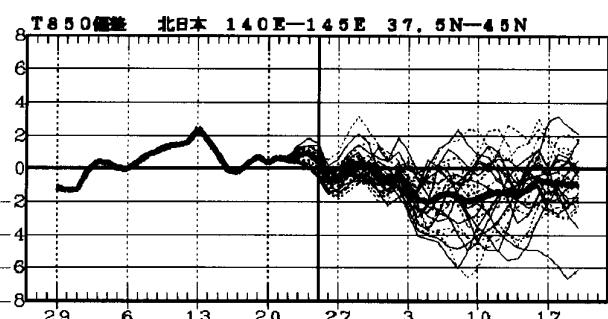


#### ・地上気圧と降水量

月平均で見ると、大陸に高気圧、カムチャッカ半島付近に低気圧。日本付近には特徴がなく周期変化が基調だが、低気圧の通過後に一時冬型の気圧配置になる見込み。

降水域は弱いものが東日本、北日本にかかる。

週別（図略）では、2週目までは月平均の気圧配置とほぼ同様。3~4週目は、北日本は弱い冬型の気圧配置。



発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー（細線）  
の平均値

#### ・北日本 850hPa 気温平年差の時系列

アンサンブルメンバーの平均は、1週目は平年並程度で推移するが、1週目の終わりから下降し、2週目は平年を大きく下回る。3週目以降はやや上昇するが、平年を下回っている。

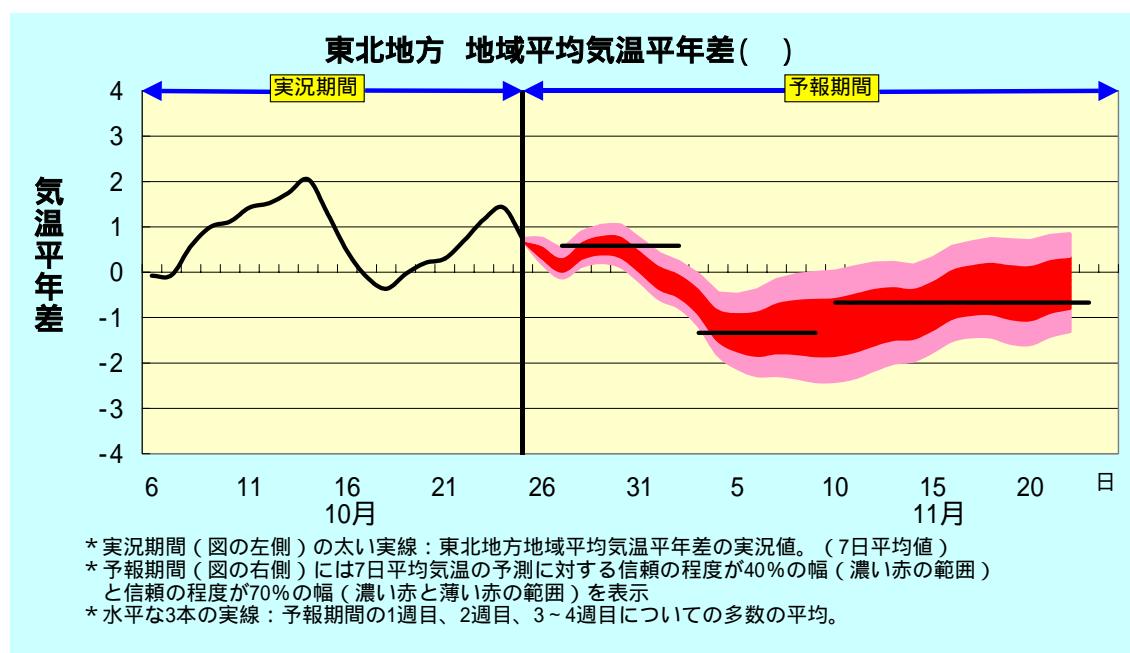
ただし、各アンサンブルメンバーは2週以降バラツキがかなり大きい。

### 3. 東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

週別の気温は、1週目「平年並」、2週目「低い」、3~4週目「低い」を予測している。

予報は他の予想資料から3~4週目を「平年並」に修正する。

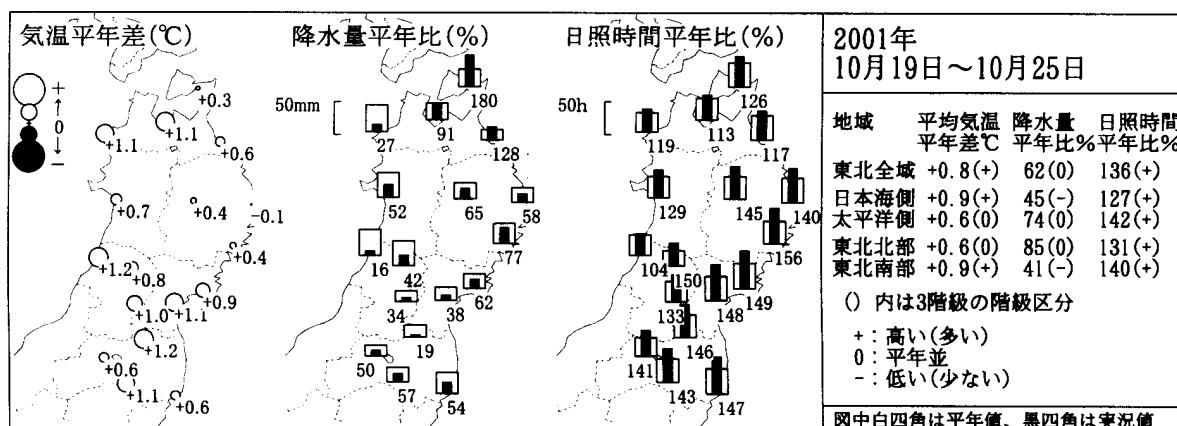
なお、予報の信頼度は小さい。



### 4. 最近1週間（10月19日～10月25日）の天候の経過

この期間、天気は周期的に変化した。19～21日は移動性高気圧に覆われ晴れた。22～23日は日本海と本州南岸を進んだ低気圧の影響で天気が崩れた。その後は、寒気の影響で東北日本海側は曇りや雨の所が多くったが、東北太平洋側では高気圧に覆われ概ね晴れた。

平均気温は、東北北部で平年差+0.6と平年並、東北南部で平年差+0.9と高かった。降水量は、東北北部で平年比85%と平年並、東北南部で平年比41%と少なかった。日照時間は、東北地方で平年比136%と多かった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)